



ヘルパンギーナが増加中です

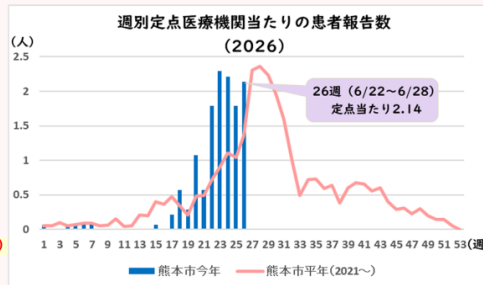
ヘルパンギーナとは、発熱とともに、のどに痛みと水疱が現れる「夏かぜ」の一種です。乳幼児を中心に、毎年5月頃より増加し始め、7月頃にかけてピークを形成します。5歳以下が全体の90%以上を占めます。

感染経路 主に、経口感染、糞口感染（便と一緒に排せつされたウイルスが口に入って感染すること）、接触感染、飛まつ感染です。

主な症状 感染してから2~4日後に、突然の発熱に続いて、のどに痛みと水疱が現れます。発熱は1~3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。一般的に経過は良好で、2~3日以内に回復しますが、合併症として、熱性けいれん、脱水症、小児ではまれに髄膜炎や心筋炎などの注意が必要です。



のどの奥に発赤（ほっせき）を伴う小さい水疱が複数みられます。



治療について 特別な治療方法はありません。基本的には軽い症状の病気のため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。まれに髄膜炎や心筋炎などが起こる場合があるため、経過観察をしっかりと行い、医療機関への受診を検討してください。

◎感染対策◎

日頃から「手洗い・うがい」といった感染対策を生活習慣にすることが大切です。

また、発症後4週間頃までは、便からウイルスが排せつされるため、発症した乳幼児のおむつ交換を行う時は、排せつ物を適切に処理し、流水と石けんでしっかりと手洗いをしてください。

定点種別	疾患名	状況	25週(6/15~6/21)		26週(6/22~6/28)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	-	0	0	2	0.09
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	76	3.30	48	2.09
	急性呼吸器感染症(ARI)	/	1258	54.70	1051	45.70
小児科	RSウイルス感染症	/	2	0.14	4	0.29
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	4	0.29	7	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	35	2.50	23	1.64
	感染性胃腸炎	-	40	2.86	41	2.93
	水痘(みずぼうそう)	-	4	0.29	2	0.14
	手足口病	○	183	13.07	203	14.50
	伝染性紅斑(りんご病)	-	5	0.36	1	0.07
	突発性発しん	/	10	0.71	14	1.00
	ヘルパンギーナ	-	25	1.79	30	2.14
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	6	0.43	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	-	1	0.20	1	0.20
基幹	細菌性髄膜炎	/	1	0.20	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	0	0.00	1	0.20
	マイコプラズマ肺炎	/	1	0.20	1	0.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし